

ジャパンラグビー・トップリーグ

2つのタイトル

【トップリーグ】

＝12チームの1回戦総当たり戦

9月13日に開幕。W杯前に2節を開催し、日本代表のW杯出場期間をはさみ、11月第3週（16日）より再開。2004年1月第4週に全11節を終了する。

【トップ8 トーナメント】

＝リーグ戦上位8チームによるトーナメント戦

トップリーグ終了後、1週のオフをはさみ実施。

◆トップリーグと各地域社会人リーグとの関係

入れ替え戦について

○各地域リーグの1位3チームによる総当たり戦の1、2位チームは、トップリーグ12位、11位チームと自動入れ替え、3位チームはトップリーグ10位チームと入れ替え戦を実施。

○各地域リーグの2位3チームによる総当たり戦の1位チームは、トップリーグ9位チームと入れ替え戦を実施。

【リーグ順位の決定法】

勝ち点制

勝利＝4点／引き分け＝2点／敗戦＝0点

ボーナス点

①7点差以内の敗戦＝1点

②勝敗に関係なく、4トライ以上＝1点

・全試合終了時点で、勝ち点の多い順に順位決定

・勝ち点同点の場合、以下に従って順位決定

(1) 直接対決で勝っているチームが上位

(2) リーグを通じてトライ数の多い順

(3) リーグを通じてトライ後のゴール数の多い順

【トーナメントでの勝敗決定】

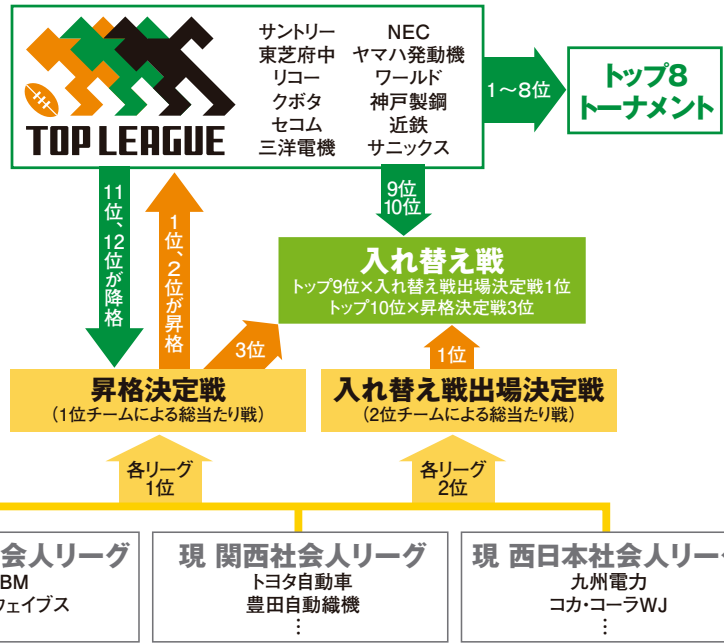
獲得点制

同点の場合

(1) トライ数の多い順

(2) トライ後のゴール数の多い順、で勝敗決定

* 上記方法で順位および勝敗決定しない場合、抽選で決定（決勝の場合、両チーム優勝／ジャパンカップ組み合わせ位置は協会が決定）



表彰規定についての基本方針

【トップリーグ】

優勝／準優勝／3位

フェアプレーチーム（リーグを通じて反則が少ないチームから選出）

【トップリーグ・個人賞（仮称）】

MVP／得点王／最多トライゲッター／ベストキッカー（キックによる最多得点者）／ベストフイフティーン

【トップ8トーナメント】

優勝／準優勝

【トップ8トーナメント・個人賞】

MVP

*個人賞の決定方法は、プレス投票による選定方法など含めて、現在検討中

<東京、大阪、福岡のスタジアムを中心に開催>

◆1節ごと6試合を開催し、その開催割合は東京＋大阪で4～5試合、福岡で1～2試合を基本

◆中心となる競技場は、秩父宮ラグビー場／近鉄花園ラグビー場／博多の森球技場

◆1会場2試合開催となる競技場もある

※その他地方開催は、チームの事情や各地からの開催依頼状況により調整

【J.R.F.U. 発表】 トップリーグ、その役割と活動目標

① 日本ラグビーのトッププレーヤーを強化する

- 強豪チーム同士による切磋琢磨により、プレー水準を高めトッププレーヤーの質を相乗的に高める。また、グローバルレベルで活躍できるプレーヤーの育成を目指す。
- 最高峰のリーグで戦うことで、プレーヤー、指導者、その他関係者の意識を向上させる。

② 日本ラグビーの水準向上に貢献する

- リーグで得られる強化ノウハウや戦略・戦術を集約・蓄積し、草の根の普及活動から日本代表強化活動までフィードバックできる仕組みを構築する。
- 競技上の戦略・戦術、審判技術やメディカルなどラグビー全般の各種技術レベル向上、および競技運営レベル向上の施策の場として貢献する。
- 欧州および南半球の強豪リーグとの交流を積極的にはかることで、日本ラグビー全体のレベル向上に貢献し、世界の強豪リーグに並べて認知されるリーグを目指す。

③ ラグビーファン拡大への牽引役となる

- 「感動を呼ぶ白熱したレベルの高いゲーム」を数多く実施することで、より多くのファンがラグビーを楽しめる環境を提供する。
- トップリーグを通じて、ラグビーの魅力をより多くの人々に認知される機会を増やしていく。
- ラグビー観戦の楽しさを、ダイナミックなプレーを見る興奮、他スポーツとは異なる応援スタイル、魅力ある会場の雰囲気を通じて、人々に伝える。

④ 企業のスポーツ振興への貢献、地域との協働によるスポーツ振興を達成する

- チームおよびプレーヤー支援など、企業によるスポーツ振興への貢献を達成できる環境を整備する。
- トップリーグ開催地域、またはチーム活動地域におけるスポーツ文化振興を目指した関係構築活動を支援する。